

餌を捕らえたコサギ(写真提供/清水町)

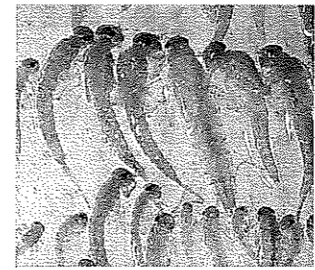
No.5(完) 柿田川シンポジウムから—4

柿田川シンポジウム報告の最終回は、京都大学防災研究所水資源研究センター助教授、竹門康弘氏による「柿田川の川虫はベジタリアン?」と滋賀県立琵琶湖博物館館長、川那部浩哉氏の「柿田川のおもしろさ」。竹門氏は柿田川に生息する川虫は石底に棲(す)む種が多く、胃の中を調べると藻と水生植物に大きく依存していることを報告、川那部氏は柿田川が日本の川全体の代表であり、一見特異な川であることがそこに棲む生き物の「くらし」や人間の「くらし」のありさまを考える上で極めて重要だと指摘した。

柿田川の川虫はベジタリアン?

竹門 康弘氏

柿田川ではたくさんのおもしろい水虫が湧き出ていると聞いています。透明で清らかな水中に棚引くその姿は、手入れの行き届いたアクアリウムにも勝ります。その様子を見ていると、水草にたくさんお虫がついていると不思議な感じがしますが、水草を網ですくって見ると川虫(水生昆虫)や貝などがワヨワヨと出てきます。こんなきれいな水の中を泳ぐのは、何を食べて生きているのだろうかという疑問にかかっています。



柿田川に多い遊泳型の藻類食者コサギ科の幼虫

そこで、まず柿田川の水草と石底で川虫を採集して、それぞれにどんな種類が棲んでいるかという疑問にかかっています。柿田川は、すでに述べられている通り、珍しい、特異な自然の残った川であり、さまざまな意味で「おもしろい」川です。

私は、周辺に住んでおられる方々に質問、さらにはいくつかの川の変遷を振り返り、今後の調査すべきいくつかの点を指摘しよう。あわせて、「特異な川」とされる柿田川が持つ、「一般的な「おもしろさ」」にも触れたいと思います。

柿田川は、すでに述べられている通り、珍しい、特異な自然の残った川であり、さまざまな意味で「おもしろい」川です。私は、周辺に住んでおられる方々に質問、さらにはいくつかの川の変遷を振り返り、今後の調査すべきいくつかの点を指摘しよう。あわせて、「特異な川」とされる柿田川が持つ、「一般的な「おもしろさ」」にも触れたいと思います。

柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。

柿田川公園から谷を眺める。上だけの流れとして、川なるものを主に扱ってきたのではないですが、私はアフリカで、川に水がなくなる乾燥地には、そこに穴をたいて水をくみ上げていくのを見ました。しかし、雨期にも同様、川の水が流れていること、強いは思いますが、これはなかなか得難い材料です。

京都大学防災研究所 水資源研究センター 助教授

柿田川で種数が多いのは、ユスリカ、カゲロウ、次いでツバキの仲間です。個体数が多いのは、カゲロウ、ユスリカ、貝、トビケラの仲間です。普通

柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。

柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。

柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。

狩野川特別企画・ラブリバー 狩野川

柿田川 夢の100日

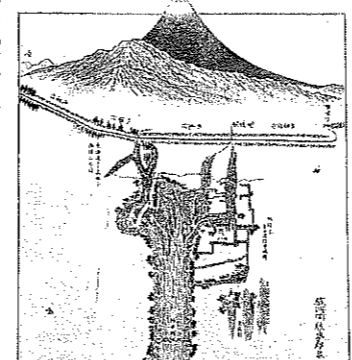
企画・監修/静岡新聞社営業局

柿田川のおもしろさ

川那部 浩哉氏

●滋賀県立琵琶湖博物館館長

柿田川は、すでに述べられている通り、珍しい、特異な自然の残った川であり、さまざまな意味で「おもしろい」川です。私は、周辺に住んでおられる方々に質問、さらにはいくつかの川の変遷を振り返り、今後の調査すべきいくつかの点を指摘しよう。あわせて、「特異な川」とされる柿田川が持つ、「一般的な「おもしろさ」」にも触れたいと思います。



駿河國駿東郡泉頭図 1843年に描かれた柿田川(清水町立清水小学校蔵)

柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。

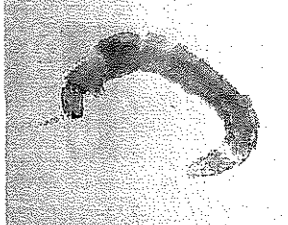
柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。



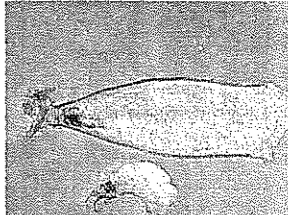
柿田川の美しい川面(写真提供/清水町)

水生植物を食べています。柿田川の川虫の餌メニューは、藻類、水生植物、コケ植物などがある、ベジタリアンの傾向にあるからです。一般的な河川では、落ち葉をかじって食べる川虫、流れてくる細かい粒状の有機物を網でろ過して食べる川虫、川底に積もった有機物を「ほうき」のような口でかき集めて食べる川虫が多いのですが、柿田川では、水や石の表面で藻類をほそ取るものが多くを占めて、ろ過食とか落ち葉を食べるものは少ないことがわかりました。

柿田川は、水が地底から湧き出ているので、水中に有機物がほとんど含まれていません。つまり、網を張ったかき集めるような方法では細かい粒状の有機物を得にくいわけですね。一方、柿田川の水には豊富な窒素やリンが含まれている上、透明度が高いため植物が光合成をするには好条件です。このため、柿田川の川虫ではベジタリアンが優勢になったと考えられます。



細かい有機物を食べるヌカユスリカ属



糸状藻類の細胞質を吸うハゴイタヒメトビケラ属の幼虫と果